

社会医療法人敬愛会の地域包括ケアシステムに資する

有床診療所（19床）の設置について

【現 状】

沖縄県の地域医療構想（29年3月版）によると、中部地区の往診、訪問診療、在宅看取りといった在宅医療サービスの施設数及び実施件数はともに県平均、全国平均を下回り、サービス実施件数は全国平均の4割から2割の状況。

また、地域包括ケア病棟については、高齢者人口当たりの病床数は九州各県平均の4割程度となっている。

この様な状況で、軽度な入院医療が必要な方やスムーズな在宅移行が出来ない方が散見される。

表6-2-14 在宅医療サービス実施数（平成26年医療施設調査）人口10万人対

	実施施設	往診		訪問診療		在宅看取り	
		施設	実施件数	施設	実施件数	施設	実施件数
全国	33.9	19.7	163.3	18.3	844.6	3.8	7.1
沖縄県	15.6	7.7	71.5	9.4	469.3	1.8	2.7
中部	11.7	6.6	43.4	7.0	315.7	1.6	1.6

※人口は国立社会保障・人口問題研究所 2015年推計人口

表6-2-19 地域包括ケア病棟の整備数（平成28年1月5日時点）

（単位：箇所、床）

	施設数	病床数	高齢者人口 10万人対
九州	333	8,999	240.8
沖縄県	9	210	75.2
中部	2	96	103.7

出典：九州厚生局「届出受理医療機関名簿」

※人口は国立社会保障・人口問題研究所 2015年推計人口

【目 的】

今後、高齢化により増大・多様化する医療需要に対し病床設置届出診療所を設置し在宅に特化した医療を提供することで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう地域包括ケアシステムの構築を目指す。

現在及び将来に渡って不足している回復期機能の中で、特に不足している地域包括ケア病棟と同様の役割を担うことで、在宅患者や介護保険施設入所者等の状態が軽度悪化した場合、急性期を経過し在宅復帰に向けた入院医療やリハビリテーションを要する場合、その他、軽度な入院を要する場合等、在宅特化した機能を以て、地域包括ケアシステムの機能の一部として地域医療に貢献する。

【機能】

病床種別	地域医療構想における病床機能の区分	病床数
一般病床	回復期 (算定入院料＝有床診療所入院基本料)	19床

外来機能 : 原則外来診療を行わず、在宅診療と往診に特化した診療所とする。

入院機能 : 地域包括ケア病棟と同様とする

併設事業所 : 下記に示す在宅機能を同一建物内に設置し連携する事で、スムーズな在宅への流れを構築する。

看護小規模多機能型居宅介護 (沖縄市より内定済・平成33年3月開設予定)

訪問看護ステーション〈強化型〉(現開設施設を移設予定)

居宅介護支援事業所 (現開設施設を移設予定)

通所リハビリテーション (現開設施設を移設予定)

【入院対象患者】

地域の開業医や施設で急性期病院では受け入れて頂けない軽度な入院を要する肺炎等の方、急性期病院での治療を終えたが継続して軽度な入院医療と在宅復帰に向けた準備が必要な方、また必要に応じて看取りが必要な方などを対象とする。

※ 特に中部地区は肺炎・誤嚥性肺炎等の患者が多く、本来の受入先である地域包括ケア病床も不足。

2次医療圏域毎の肺炎患者推移

2次医療圏	肺炎患者数	総数	全症例における割合
北部	1,086	12,241	8.9%
中部	4,879	48,512	10.1%
南部	7,235	75,902	9.5%
宮古	553	6,278	8.8%
八重山	469	5,982	7.8%
総計	14,222	148,915	9.6%

【肺炎患者集計条件】 下記のMDC6桁に該当する患者数

040070インフルエンザ、ウイルス性肺炎 040080肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎 040081誤嚥性肺炎

※ 厚生労働省HP/平成28年度DPC導入の影響評価に係わる調査「退院患者調査」の結果より

【予定地】

沖縄市登川 536

【スケジュール予定】

2019年6月着工

2021年2月竣工

// 3月開設・病床設置